

勝福寺大日堂(小田原市)

しょうふくじ だいにちどう

ここが飯泉山勝福寺/正面は仁王門/江戸時代(1758年)の建立/小田原市指定文化財



小田原市指定重要文化財（昭和六三年一月一日指定）

勝福寺の仁王門

（所在地）小田原市飯泉一六一

飯泉山勝福寺は、真言宗東寺派に属し、通称飯泉観音と呼ばれ、坂東三十三観音の第五番札所として有名です。本堂や本尊の十一面観音は、県の重要文化財に指定されるなど、由緒ある寺院です。

仁王門は、『飯泉誌』によると宝暦八年（一七五八）に造営されたもので、全体に木割が太く、二重虹梁にじりょう墓股むまど式の妻架構つまかまどが堂々とした外観を構成しています。また、八脚門としては県下でも最大級で、格調の高い門です。

この仁王門も老朽化のため、昭和三四年から三八年までにかけ解体修理され、屋根も、茅葺から銅板葺に改変されましたが、それ以外は貫などに新材で補修した箇所があるものの、原形をよく留めています。

小田原市教育委員会

さまざまな文化財があるようだ

飯泉山勝福寺（通称 飯泉観音）

飯泉山勝福寺は、真言宗東寺派に属し、十一面観音を本尊とする。創立は、奈良時代の頃に、弓削道鏡が流されて下野に赴くとき、千代の里に寺を建立し、孝謙天皇より賜った唐国伝来の観音像を安置したのに始まると伝えられる（千葉山弓削寺）。

後に寺が焼けて当地に移され、飯泉山勝福寺と称した。阪東33観音の5番札所としても有名で、国府津の親木橋から当寺までの道路は巡礼街道と呼ばれている。

棟札によれば、現在の本堂は宝永3年（1706）に再建されたもので、江戸初期頃の古式をとどめた地方色豊かな建物である。

本寺にまつわる伝承として、曾我兄弟が仇討祈願のために日参し、五郎が百人力、十郎が十人力を授かり、富士の裾野で仇討ちに成功したことや、講談で有名な雷電為右衛門が、田舎相撲の大岩大五郎を倒したことがある。また、二宮尊徳が少年時代の頃、旅僧から観音経を聞き、一念発起した地であるといわれている。

飯泉観音の縁日は、1月18日が初観音、8月9日・10日が四万八千日、12月17・18日がだるま市で、いずれも市が立ち、多くの人で賑わう。

勝福寺に係る指定文化財等

本堂・神奈川県指定重要文化財（昭和32年）	十一面観音立像・神奈川県指定重要文化財（昭和32年）
銅鐘・小田原市指定重要文化財（昭和39年）	青銅水鉢・小田原市指定重要文化財（昭和39年）
仁王門・小田原市指定重要文化財（昭和63年）	大イチョウ・神奈川県指定天然記念物（昭和32年）
大イチョウ・かながわの名木100選（昭和59年）	樹叢・神奈川県指定天然記念物（昭和32年）
だるま市・かながわのまつり50選（昭和57年）	小田原50選（平成2年）

Izumizan Shofuku-ji

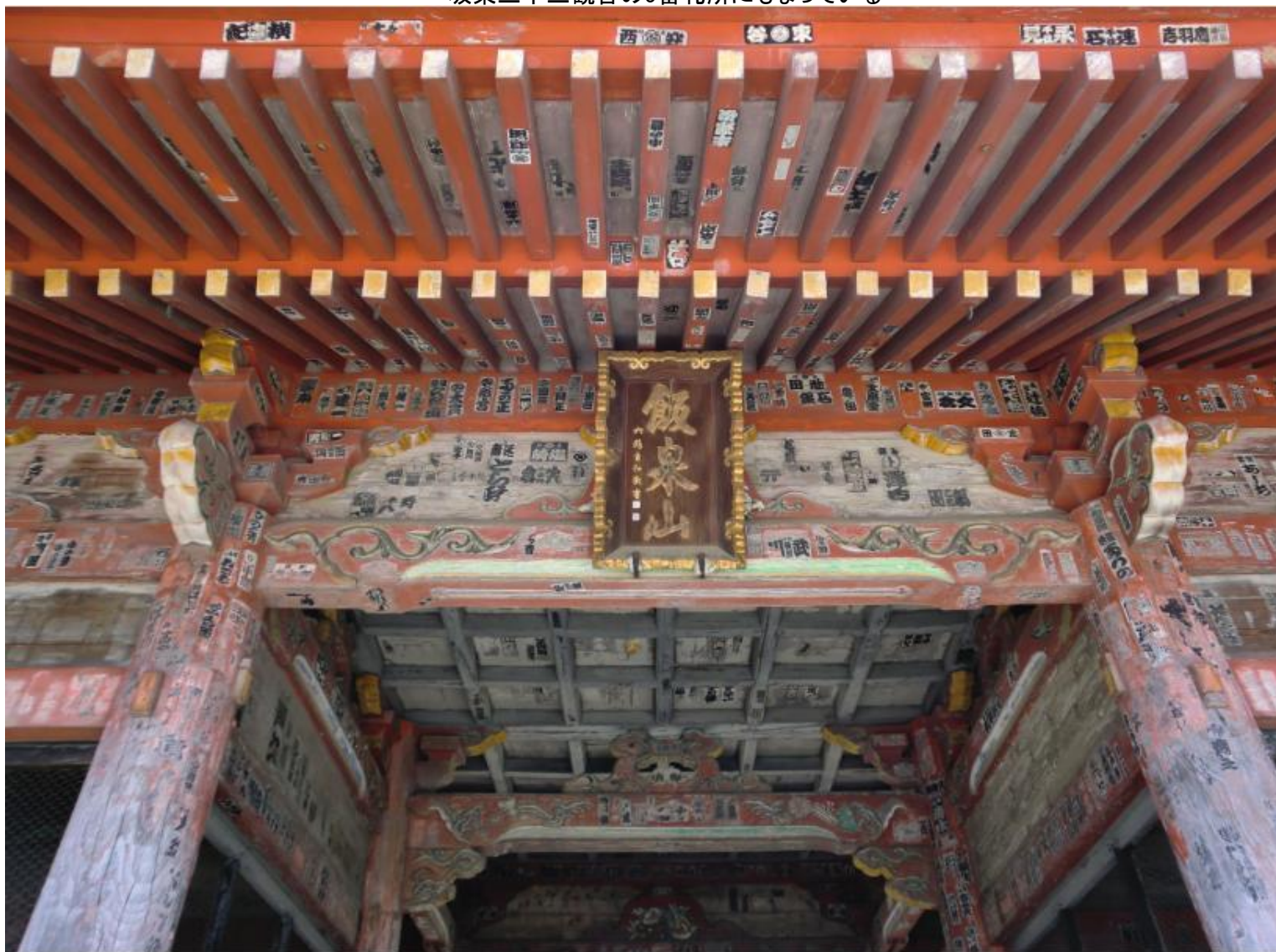
Izumizan Shofuku-ji temple

Izumizan Shofuku-ji Temple is affiliated with the Shingon sect of Mahayana Buddhism. The temple's main religious image is the Eleven-faced Kannon, a bodhisattva which represents maternal compassion. The temple was first constructed during the Nara Period (710-793) in a village called Chiyo. The temple burned down, and was rebuilt in 1706 in its present location where it became known as Izumizan Shofuku-ji. The main hall of the temple was reconstructed full of local colors combined with the traditional style of the early Edo Period (1603-1867).

The temple is also famous for its Daruma-ichi, a market for dharma dolls which is held annually on December 17 and 18.



坂東三十三観音の5番札所にもなっている





「堂々とした外観を構成する二重虹梁幕股式の妻架構」が見てとれる



正面前方が本堂(金堂あるいは観音堂とも)



仁王門を境内側から見たところ



これは「青銅水鉢」/江戸時代(1704年)の製作/小田原市指定文化財



小田原市指定重要文化財

昭和三十九年五月二十七日指定

勝福寺の青銅水鉢

この水鉢は、青銅製で竜頭船の形をしています。船尾に十一面観音菩薩の坐像が一軀あり、水鉢の全体に多数の銘文が刻まれています。

銘文によれば、作者は江戸神田の鋳物師小沼播磨守藤原正永とあり江戸時代の宝永元年（一七〇四）七月と記してあります。

この水鉢は、水鉢として形などが珍しく、その造りも優れています。

全長 二七〇センチ

幅 五十五センチ

高さ 八十二センチ

小田原市教育委員会





これは「銅鐘」/江戸時代(1629年)の製作/小田原市指定文化財



小田原市指定重要文化財

昭和三十九年五月二十七日指定

勝福寺の銅鐘

この銅鐘は、青銅製の和鐘で銘文により、江戸時代初期の寛永六年（一六二九）に地元小田原の鋳物師である青木源右衛門が作ったことがわかります。

また、この銅鐘の奉納者は、江戸の侍である佐須弥左衛門尉政重と記されています。

小田原の鋳物業は、戦国時代に北条氏から庇護を受け、関東鋳物業の中心でありました。

江戸時代になってからも鋳物は栄え、山田、長谷川、青木の諸家から名工が生まれ小田原の梵鐘ぼんしょうとして広く知られてきました。

この銅鐘もその一つであり、市内に残る数少ない銅鐘の内でも、優れたものであります。

総高 一三九センチ 鐘身高 一〇〇センチ
口径 七十四センチ 竜頭高 二十八センチ

小田原市教育委員会





これが本堂/江戸時代(1706年)の再建/神奈川県指定文化財/このエリアが観音霊場らしい



昭和41年～43年に半解体修理が行われたが、大岡實建築研究所はその修理工事の設計に関わっているようだ



修理工事の施工は安田工務店らしい？



右斜め前方から見たところ/修理前の屋根は茅葺だったが、柿葺型銅板屋根に変更されたという



背後から見たところ



これは「力士雷電仇討相撲土俵跡」/その向こうに見えるのは馬頭観音堂(大岡寛建築研究所は勝福寺馬頭観音堂の設計に関わっていたようだが、この建物はそれとは違い、他者の手によるものらしい)



「力士雷電仇討相撲土俵跡」の石碑



力士雷電仇討相撲土俵跡



晴電高松奇門は明治四年信濃國に生る天
明四年江戸蒲風部屋に入門寛政八年大関
となり身長六尺五寸体重四十五貫投奔鉄
の如く資性温順にして技海天下無双なり
寛政奇門の力士相撲部屋は不況大石
岩五郎の投げに敗れ相撲部屋の遺跡敷
を志し機を待つこと久し寛政元年五月
飯塚親吉屋方に江戸谷風一行の勸進文書
書あるを知らぬ松之丞を洞前の旅宿寄屋
に滞在の雷電に怒頭す雷電その意を若
や親を必勝を祈願し遂に大電を降して
奇蹟を果しなりと云う世人この雷電の功
を友の仇討と賞讃す雷電の名戸これ
りなく世に在り古今の名力士と云はる
後に日本大相撲小田原松野間産の松枝を
賞讃する者により土俵跡に記念の碑を定む
と云う世にこの史実をたうものなり

坂東五香
飯塚山勝福寺

さて、これが大日堂/右手にも向拝があり、そちらは北向大師となっている



この大日堂は仮本堂としての位置づけだったようだが、その後大日堂とされたようだ/これも施工は安田工務店か？











左手が大日堂の向拝、右手は北向大師の向拝





北向大師正面/右手は縫破風として一部屋出している











これが縫破風のところ



縫破風の納まり



これが縋破風として一部屋出している部分の立面



こんな具合になっている



北向大師の反対側立面/右手は大日堂の向拝



縫破風の部分



右手は大日堂の向拝



疎垂木で各部材は面がとってある



垂木もこんな具合に面がとってある



猪目懸魚



宝珠、露盤



さて、これは大日堂の隣にある八幡神社



八幡神社

鎮座地 小田原市飯泉一六四
主祭神 菅田別命
例祭日 十月第一日曜日
境内末社 稲荷社・天神社・神明社

古来、葛飯泉は、鎌倉街道・大山街道・足柄山道・箱根山道等々が交錯し、殊に鞠川（現在の酒匂川）の渡り場、隣接の坂東観音五番札所の宿場と共に交通の要衝であったが、同時に、洪水・地震・噴火に悩まされた住民は相謀り、永年の願望だった葛飯泉村に鎮守神を奉斎すべく、時の宗我掃磨介広之（宗我部比古神社々主）に請願し、鎌倉八幡宮の分霊を奉遷したのである。

其の後遂次近郊の末社を整理集合して、郷社として天下泰平・五穀豊饒・安産・永世平和の守護神として崇敬され祀られてきた。





こちらは山門と築地塀で区画された本坊エリアで、左手に見えるのが新しい本堂



四脚門の山門となっている



これが新しい勝福寺本堂





さて、これが「大イチョウ」



こんな感じ



神奈川県指定天然記念物で、かながわの名木100選となっている



神奈川県指定天然記念物

勝福寺と

八幡神社境内の樹叢

昭和四十七年七月二十一日指定

小田原市中央部の低地を流れる酒匂川の左岸約二〇〇メートルのところに飯泉山勝福寺があり、飯泉地区の鎮守である八幡神社がある。寺院と神社との間には境界はなく同一境内にあるような現況で、神仏習合時代の面影を今に残している。

境内には、ケヤキ、ムクノキ、イチヨウ、エノキなどの落葉高木を主に、クスノキ、カヤ、イヌマキなどの常緑の高木が生育し、お寺の森とお宮の森が一体となつてみごとな樹叢ができています。

「勝福寺の大イチヨウ」（昭和三十二年天然記念物指定）を含むこの樹叢を保護するため、天然記念物として指定した。

神奈川県教育委員会

さて、こちらは道祖神/小田原市指定文化財





参考ホームページ

<http://history.ukinedori.com/2007/11/%E5%8B%9D%E7%A6%8F%E5%AF%BA.html>

<http://members3.jcom.home.ne.jp/arecore/bandou33-5-shoufukuji.html>

<http://cinnabar.sblo.jp/article/169519023.html>

<http://blogs.yahoo.co.jp/imoimochan1911co/23067645.html>

http://www.rekitabi.sakura.ne.jp/junrei_bandou/05syouhukuzi/syouhukuzi.html

<http://whitemary.web.fc2.com/bando/5syouhuku.html>

<http://www.geocities.jp/junreitobotobo/bandou/bandou3305.html>

<http://ameblo.jp/tsato1966/entry-11901817964.html>

<http://blog.goo.ne.jp/odawarashibashi/e/2f73c0f3dc54122e580655a637abad23>

